

以下はWHO仮訳であり、原文(英文)の内容が優先します。

[http://www.wpro.who.int/media\\_centre/jpn\\_earthquake/FAQs/faqs\\_foodcontamination.htm](http://www.wpro.who.int/media_centre/jpn_earthquake/FAQs/faqs_foodcontamination.htm)

また、記載の時刻は、すべて東京時間です。情報ソースは、特に記載のある場合を除き公式のもです。

3月23日更新(午後8時、ジュネーブ時間)

## 食品の安全性

このほど福島第一原子力発電所の原子炉が損傷し、それに続いて近隣地域で採取された食品サンプルの一部から放射性物質が検出されたことで、日本から輸入される食品の安全性について懸念が高まっている。日本の当局は食品から検出される放射性物質について暫定基準値を定め、食品に対する監視体制を敷いている。当局は食品の放射性核種の濃度測定を行い、測定結果を公開している。これまでにいくつかの野菜と牛乳から放射性物質が検出され、初期の食品検査では、日本が定める暫定基準値を超える濃度の放射性ヨウ素が検出された。放射性セシウムも検出されたが、放射能濃度の値は低い。

FAOとWHOが作成した下記のQ&Aにおいて、日本で生産される食品の安全性に関して国際的に高まるいくつかの懸念に対する回答を示した。

**日本で放射性物質が食品から検出されたという今回の報告は、国際的にどのような影響があるか？**

- 調査結果は、日本のいくつかの食品が、人間が摂取するには不適切なレベルの放射性核種で汚染されている可能性があることを示唆している。この影響を最も直接的に受けるのは日本の食物生産者と消費者で、日本政府はこの調査結果の内容を伝達している。しかし現在のところ、福島第一原子力発電所から漏れた放射能が他国で生産される食品を汚染していることを示す証拠は存在しない。

**汚染された食品を摂取すると、健康にどのような影響が及ぶ可能性があるか？**

- 放射性物質で汚染された食品を摂取すると、その人の放射能被ばく量が増え、放射能被ばくに関連した健康上のリスクが高まる。実際の影響は、摂取した放射性核種の種類とその摂取量によって異なる。現在までに報告されたデータによれば、放射性ヨウ素が主要な汚染物質であり、いくつかの食品サンプルで検出された濃度は日本が定める基準値を超えるレベルであ

った。放射性ヨウ素の半減期は8日で、数週間以内に自然に崩壊する。この物質を摂取した場合、体内、特に甲状腺に蓄積され、特に子どもの場合、甲状腺がんを発症する危険性が増す。

- ヨウ化カリウムの摂取は、甲状腺に放射性ヨウ素が蓄積されるのを防止するために有効であることが実証された手段である。
- 放射性セシウムもいくつかの食品で検出されている。放射性セシウムで汚染された食品を摂取した場合、長期的な健康被害が生じる可能性があるため、事態を注意深く見守ってゆく必要がある。

## 日本で生産されるすべての食品が、今回の原子力緊急事態の影響を受けるのか？

- いいえ。すべての食品が影響を受けているわけではない。今回の緊急事態が発生する前に出荷、または梱包された食品は影響を受けていない。しかし、放射性物質が堆積する地域で生産された食品のいくつかは汚染されている事実が判明している。このため、日本の当局は監視体制を敷いて、この問題に対処する手段を講じている。

## 今回の出来事は、日本の食品と食品製造にどのような影響をもたらすか？

- 日本の食品と食品製造に及ぶ影響は、放射性核種の種類、および食品が生産・収穫された土地に堆積または存在する放射性物質の量によって異なる。当面の懸念は食品に含まれる放射性ヨウ素であるが、この物質の半減期は比較的短く、短期間で自然に崩壊する。放射性セシウムも食品から検出されている。放射性ヨウ素とは対照的に、この物質は長年にわたって環境の中に滞留するので、より長い期間にわたり食品と食品製造に影響をもたらす、人体の健康に対する懸念となる。

## 食品はどのようにして放射能を帯びるのか？

- 食品は、原子力または放射線緊急事態により放射性物質が外部へ放出された場合に、それらの物質に汚染される可能性がある。この場合、大気、雨水、または雪等により運ばれる放射性物質が、果物、野菜、家畜飼料等の食品の表面に堆積する可能性がある。また、放射性核種が土壌を通じ作物や動物に移ることで、時間とともに放射能が食品内に蓄積する可能性もある。さらに放射能は、河川、湖、海へ流出する可能性もあり、この場合、魚介類が放射性核種を摂取する可能性がある。危険度は、放射性核種の混合度および放出される汚染物質の程度により変化する。
- 放射能は、包装された食品を汚染することはない。例えば、缶詰やビニールで包装された食品は、その食品が密封されている限り防護されている。

## 避難区域外の地域の食品に影響が及ぶのはなぜか？

- 原子力緊急事態では、緊急かつ許容以上で人々の健康に害を及ぼすレベルの放射線に人々がさらされないようにするため避難区域が設定される。しかし、食物の放射能汚染は、たとえ放射能汚染の程度がより低い場合であっても、土壌から作物への取り込みまたは家畜による飼料摂取を通じて生じる可能性がある。食物の放射性物質に関する基準は、汚染された食物が長期間にわたって摂取される可能性、およびその結果蓄積される放射線量を考慮した上で安全だと考えられる程度の低い水準に定められている。

## 国際貿易において食品に含まれる放射性物質に関する規則はあるか。

- 原子力または放射能緊急事態後の国際貿易食品における放射性核種レベルについて、国際的な合意を得た Codex ガイドラインレベル（Guideline Levels : GLs）が定められている。このガイドラインレベルは、FAO および WHO 合同のコーデックス委員会が発表するものである。
- 放射性核種レベルが GL の基準値を下回っている食品は安全に摂取できる。各国政府は、GL の基準値を超える食品について、当該食品の国内での流通を許可してよいかどうか、またはどのような場合に当該許可を下すべきかを定める必要がある。
- 食品の放射性核種残留量に関する GL は FAO と WHO が共同で設置したコーデックス委員会のウェブページで閲覧できる。
- [FAO と WHO が共同で設置したコーデックス委員会へアクセスするにはここをクリック（英語）](#)

## 原子力緊急事態が起きた場合、食品の消費者および生産者に対してどのような助言ができるか。

- 放射能を伴う緊急事態への対応は、他の有害物質の食品汚染を伴う緊急事態での対応と同一であるべきである。緊急事態の初期段階では、安全に実施できるのであれば迅速な措置を取り、放射性物質による食品汚染を予防または最小化することができる。例えば、以下の実施が可能である。
  - 屋外に保管してある食品および家畜用飼料を保護する。ビニール袋に入れるか防水シートで覆う。
  - 温室の喚起口を閉めて栽培中の野菜を保護する。
  - 家畜を牧草地から戻し、納屋または家畜小屋に移す。
  - 放射性降下物が降ってくる前に、収穫期にある出荷可能な作物を収穫し、覆いをかける。
  - 放射性降下物が降った後には作物を収穫せず、放射能汚染確認後の追加指示を待つ。
- 深刻な汚染が確認された地域では、その他にも以下をはじめとする短期、中期および長期的な多数の措置を検討する必要がある。

- 地元で生産された牛乳または野菜の消費を避ける
- 家畜の食肉処理を避ける
- 水産物（魚貝類や海藻類を含む）の消費および収穫を避ける
- 狩猟、またはきのこ類やその他山菜の採集を避ける